

S06

時間再生課題を利用したバーチャルリアリティの臨場感評価法の開発（ポスターセッション：シニア部門）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森信, 登行, 山田, 将人, 宮崎, 真 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/10449">http://hdl.handle.net/10297/10449</a>

吉岡大貴, 黒田剛士, 上田誠也, 宮崎真. 音の時間間隔の反復観察による時間精度の向上における予測/遡及的推測メカニズム. 第40回日本神経科学大会, 千葉, 2017年7月20-23日.

(宮崎真研究室)

S05

## 音韻弁別時の繰り返し効果における言語聴取能力の影響: 心理物理学的研究

金長幸希 (情報科学科), 宮崎真 (大学院情報学領域)

繰り返し見たり、聞いたりしたものと、今まで見たことも、聞いたこともない新奇なものとは、それぞれの物理的な呈示時間が同じだったとしても、知覚される時間の長さが異なり、前者の方が後者よりも短く感じられる。この効果は、「繰り返し効果」と呼ばれ、知覚順応の表れであると考えられている。本研究では、日本語と英語の母音音声を用いて繰り返し効果が発生するかを検証している。新奇な母音音声を呈示した時、それが母国語の場合は、連続する母音間の違いを弁別できるため繰り返し効果が生じず、一方、非母国語の場合は、連続する母音間の違いを弁別できないためにそれらを同一の母音として知覚してしまうため繰り返し効果が生じるという作業仮説を立てて、実験を行った。その結果、母国語（日本語）、非母国語（英語）ともに、母音の弁別に有意な繰り返し効果は認められなかった。これは、母国語においても音韻弁別の処理が、順応が生じるような初期の知覚過程よりも高次の過程で処理されていることを示唆している。今後は、楽器の音色の違いの弁別など、その他の聴覚刺激についても繰り返し効果の有無を調べ、私たちの日常での聴覚弁別に関わる情報処理過程の同定を進めていく予定である。

(宮崎真研究室)

S06

## 時間再生課題を利用したバーチャルリアリティの臨場感評価法の開発

森信登行 (情報社会学科), 山田将人 (情報社会学科), 宮崎真 (大学院情報学領域)

交通事故などの恐怖を伴う体験をすると、体感時間が長くなると言われている。そのような体験は、記憶処理の段階で生じていることが心理物理学的研究により実証されている (Stetson et al. 2007, PLoS One)。本実験ではそのような現象がバーチャルリアリティ (VR) 上でも起こるかどうかを検証する。

被験者はヘッドマウントディスプレイを装着して次の課題を行う。実験が始まると二回のビーブ音が流れる。次に、怖い映像、あまり怖くない映像、そして統制条件として、灰色だけの映像のいずれかが流れる。映像が終わったら、被験者は最初に流れた二回のビーブ音の間隔をボタン押しで再生する。その流れを一試行とする。実験の終わりに被験者に映像の恐怖度を報告してもらう。現在までの実験の結果、怖い映像を“怖い”と感じた人ではビーブ音の時間間隔の再生時間が長くなり、“怖くない”と感じた人ではその傾向がみられていない。今後、被験者数を拡充して、この実験結果の信頼性を確認していく。また、さらに恐怖感を主観評価だけではなく心拍数や皮膚電気反応を測定することで客観的に評価し、時間再生の結果との比較を行っていく。

(宮崎真研究室)